

学習時間は学校段階が上がるほど増加するが、中高生では中3・高3生以外はあまり伸びていない

学校外での学習時間(「学校の宿題」「学校の宿題以外の勉強」「学習塾」の時間)は、小1～3生49分<小4～6生82分<中学生109分<高校生120分と、学校段階が上がるほど増加する。しかし、中高生では中3・高3生以外は停滞する。その内訳をみると、「宿題の時間」の割合が、高3生を除けばどの学年でも4～6割台と高くなっている。

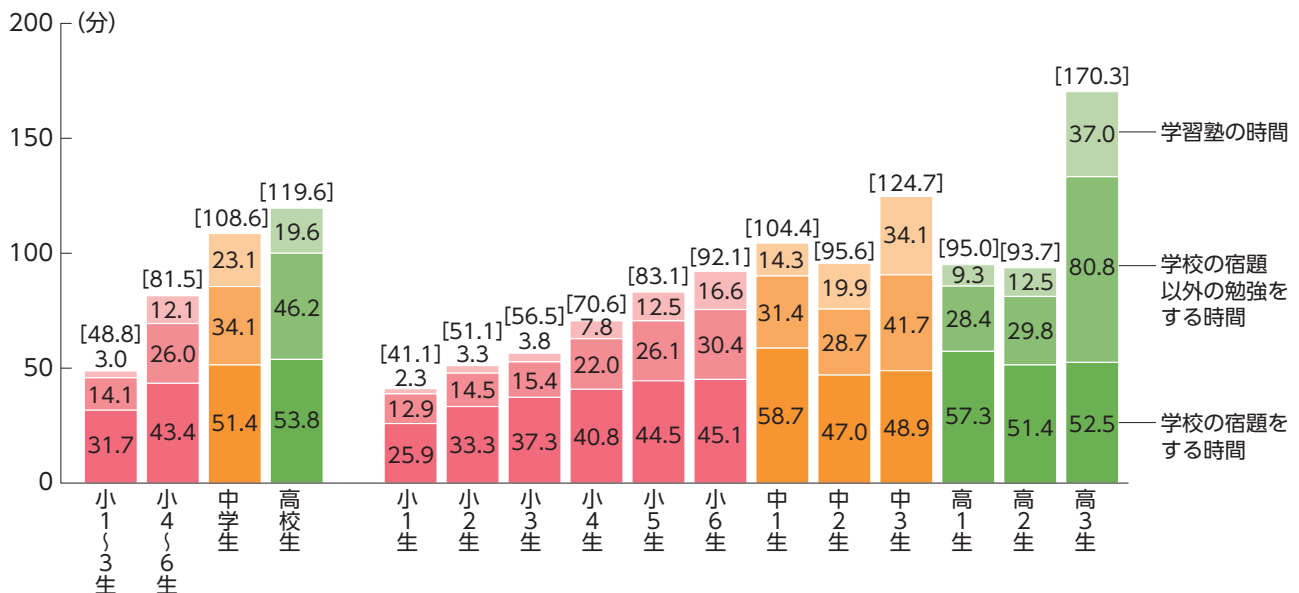


あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか。学校の中でやる時間は除いてください。「学校の宿題をする」「学校の宿題以外の勉強をする(学習塾の時間を除く)」



あなたはふだん(夏休みではないふつうのとき)、1週間に何回くらい、学習塾に行っていますか。また、1日にどれくらいの時間、勉強していますか。

子ども 2016 図 1-1-1 学習時間(学校段階別、学年別/平均時間)



子ども 2016 表 1-1-1 学習時間全体に占める各学習時間の比率(学校段階別、学年別)

(%)

	小1～3生			小4～6生			中学生			高校生		
学校の宿題をする時間	65.0			53.3			47.3			45.0		
学校の宿題以外の勉強をする時間	28.9			31.9			31.4			38.6		
学習塾の時間	6.1			14.8			21.3			16.4		
	小1生	小2生	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生
学校の宿題をする時間	63.0	65.2	66.0	57.8	53.5	49.0	56.2	49.2	39.2	60.3	54.9	30.8
学校の宿題以外の勉強をする時間	31.4	28.4	27.3	31.2	31.4	33.0	30.1	30.0	33.4	29.9	31.8	47.4
学習塾の時間	5.6	6.5	6.7	11.0	15.0	18.0	13.7	20.8	27.3	9.8	13.3	21.7

注1 「学校の宿題をする時間」「学校の宿題以外の勉強をする時間」の平均時間は、「しない」を0分、「5分」を5分、「4時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した(図1-1-1、表1-1-1)。

注2 「学習塾の時間」の平均時間は、「通っていない」と回答した子どもを0分、「通っている」と回答した子どものうち「1日にどれくらいの時間、勉強していますか」という質問に対して、「30分」を30分、「1時間」を60分、「4時間」を240分、「4時間以上」を270分のように置き換え、週あたりの通塾回数をかけあわせて7で割って算出した(図1-1-1、表1-1-1)。

注3 []内は各学習時間の合計(分)(図1-1-1)。

注4 各学校段階や学年において、学習時間全体に占める比率がもっとも高いものに○をつけた(表1-1-1)。

注5 小1～3生は保護者の回答(図1-1-1、表1-1-1)。

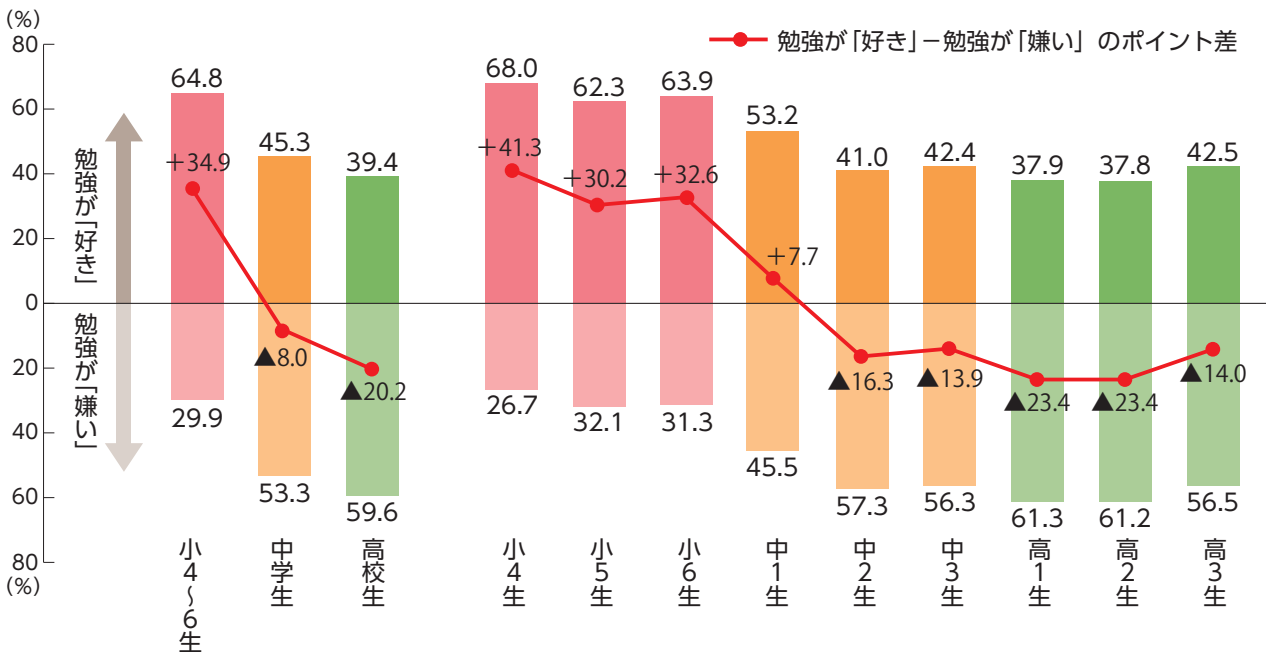
勉強が「好き」な子どもは学校段階が上がるほど減少。 中学生になると、「好き」よりも「嫌い」の方が多くなる

勉強が「好き」(「とても好き」+「まあ好き」)の比率は、小学生(65%)から中学生(45%)にかけて約20ポイント減少し、勉強が「嫌い」(「あまり好きではない」+「まったく好きではない」)の比率の方が高くなる。学年別に勉強が「好き」の比率をみると、小6生から中1生にかけて約11ポイント、さらに中1生から中2生にかけて約12ポイント減少している。性別や成績別でも、小6生から中2生にかけて同様の傾向であった。

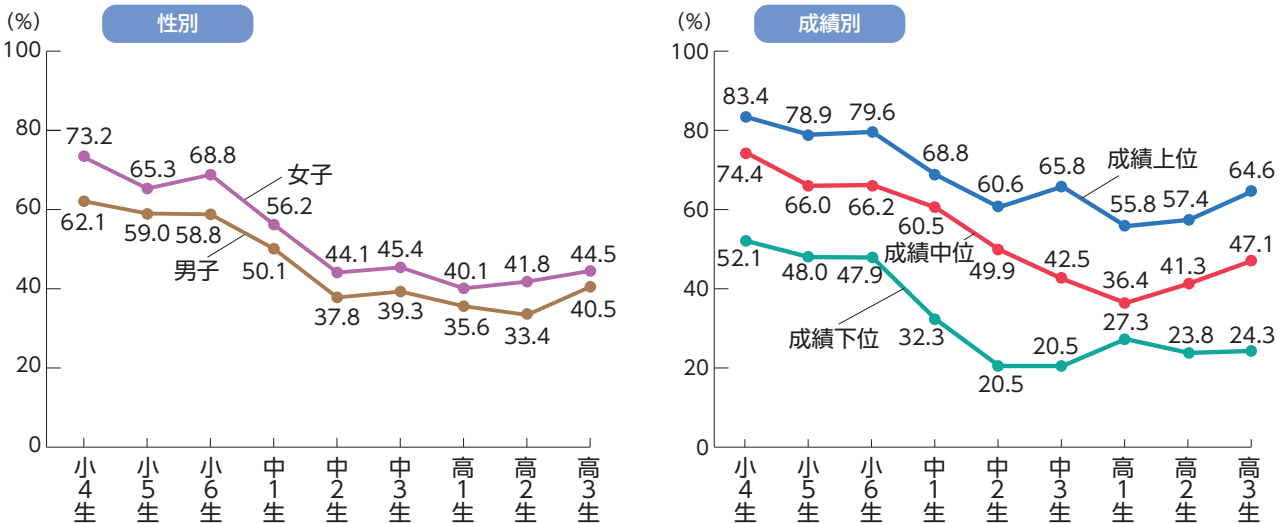


あなたは「勉強」がどれくらい好きですか。

子ども 2016 図1-2-1 勉強の「好き」「嫌い」(学校段階別、学年別)



子ども 2016 図1-2-2 勉強が「好き」の比率(学年別・子どもの性別、成績別)



注1 勉強が「好き」は「とても好き」+「まあ好き」の% (図1-2-1、図1-2-2)。

注2 勉強が「嫌い」は「あまり好きではない」+「まったく好きではない」の% (図1-2-1)。

注3 無回答・不明の比率は表示していないので、勉強が「好き」と「嫌い」の比率の合計は100%にならない(図1-2-1)。

注4 成績の自己評価(小学生は4教科、中学生は5教科についてそれぞれ5段階で回答)の総合得点を算出し、学校段階ごとに人数が均等になるように、「成績上位」「成績中位」「成績下位」の3つに分類した(図1-2-2)。

③「勉強の好き嫌い」の変化

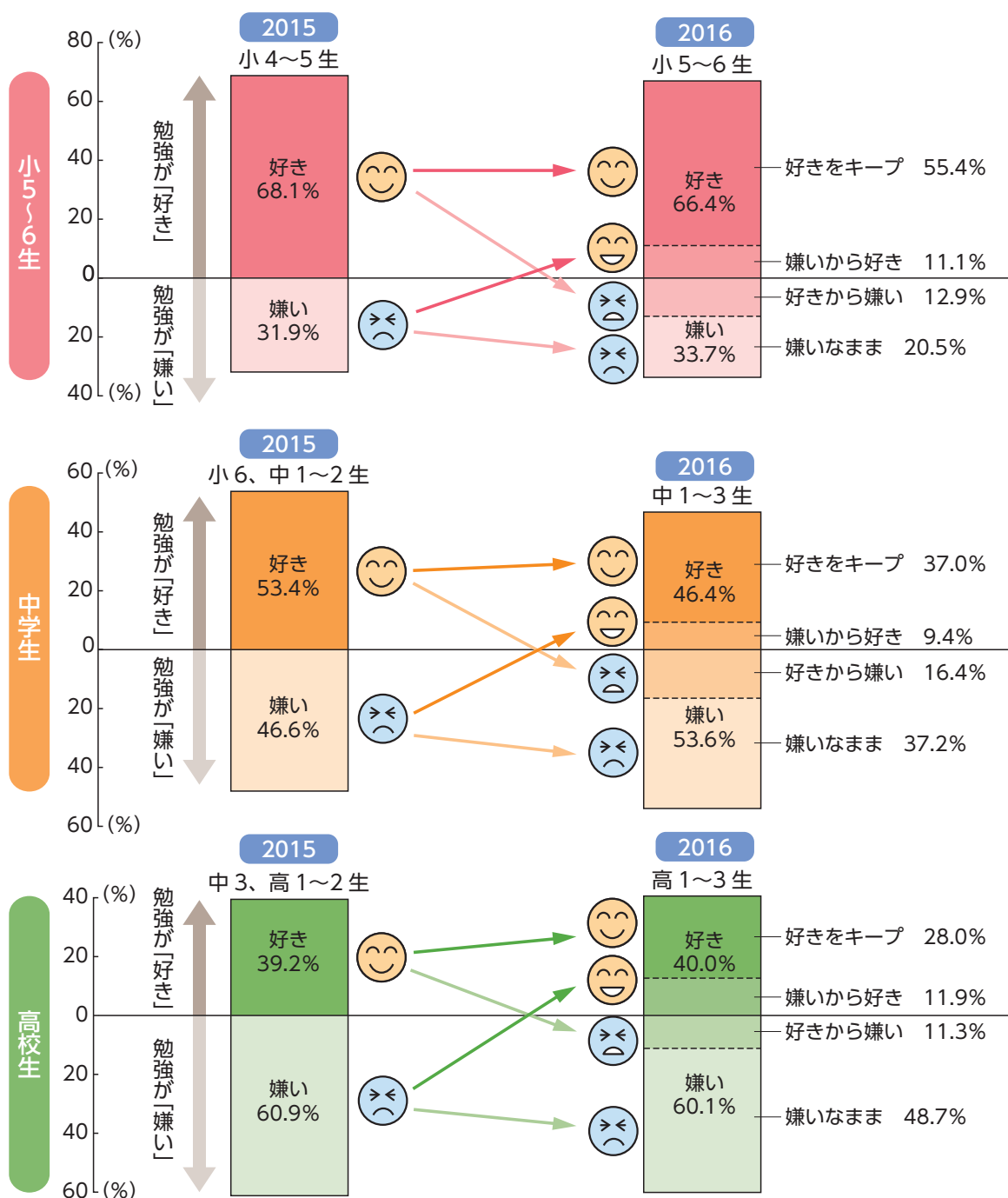
勉強が「好きから嫌い」、「嫌いから好き」になった子どもが、どの学校段階でも1割前後いる

同じ子どもに、勉強の「好き」「嫌い」を1年前(2015年7～8月)と現在(2016年7月～8月)とで尋ねた結果を比較すると、小中高生とも、勉強が「好きから嫌い」、「嫌いから好き」になった子どもが1割前後いることがわかった。全体的には、P.7で見たように、小学生から中学生にかけて勉強が「好き」の比率が大きく低下するが、勉強が「嫌いから好き」になる子どもも一定数いるようだ。



あなたは「勉強」がどれくらい好きですか。

子ども 2015-2016 図1-3-1 「勉強の好き嫌い」の変化(学校段階別)



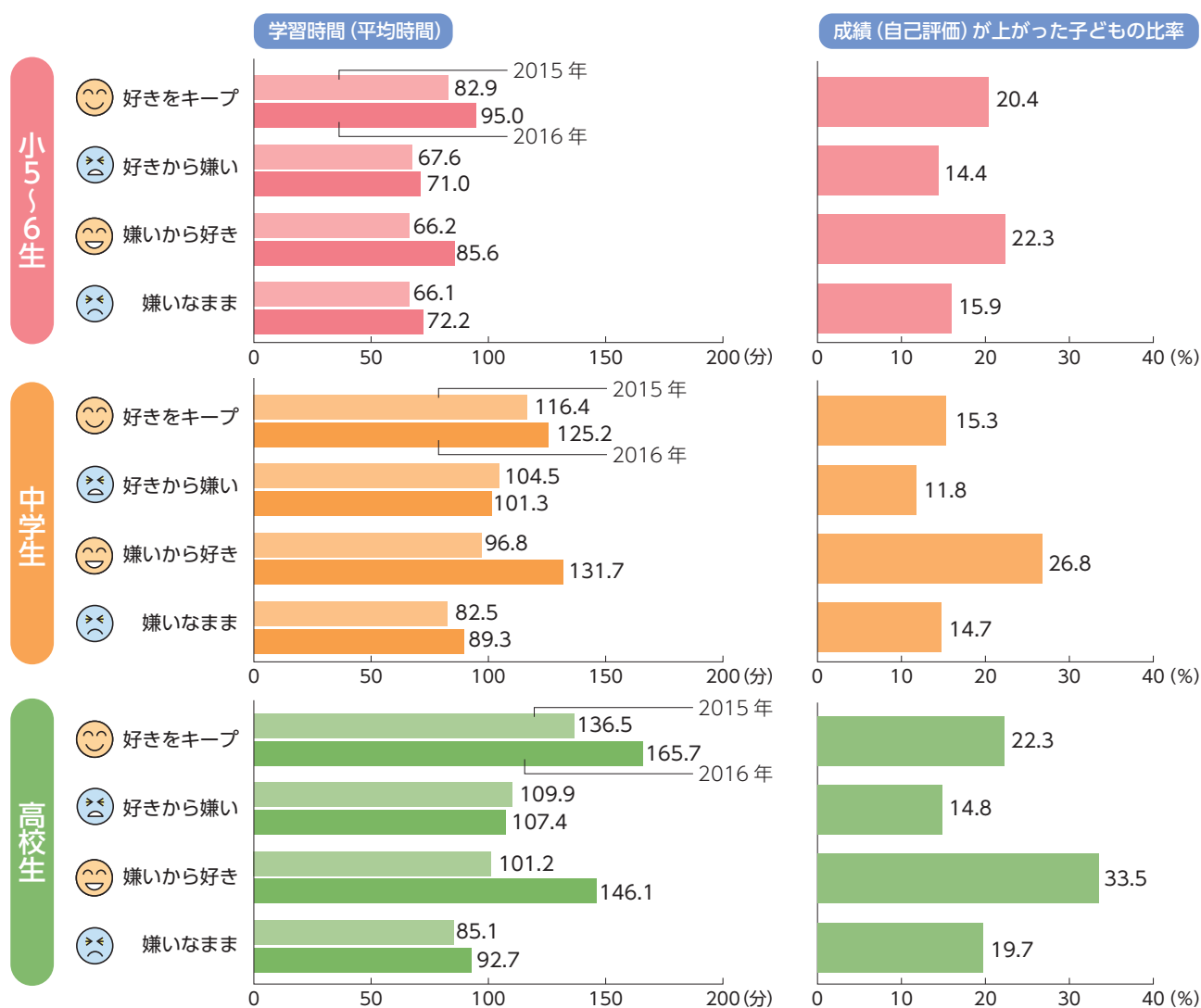
注1 勉強の好き嫌いの変化は、「とても好き」「まあ好き」を「好き」、「あまり好きではない」「まったく好きではない」を「嫌い」としたときの、2015年と2016年の回答の変化を示している。無回答・不明の人は除いている。

注2 2016年の学年。

勉強が「嫌いから好き」になった子どもは、どの学校段階でも、学習時間が伸び、成績(自己評価)も上昇

勉強が「嫌いから好き」になった子どもは、どのように学習に取り組んでいるのだろうか。学習時間と成績(自己評価)を確認したところ、小中高生とも、勉強が「嫌いから好き」になった子どもは、学習時間が増加したり、成績(自己評価)が上昇した子どもの比率が他よりも高かった。単に、勉強が「嫌いから好き」になっただけでなく、学習時間や学習成果に結びついている様子がうかがえる。

子ども 2015-2016 図1-3-2 学習時間と成績の変化(学校段階別・「勉強の好き嫌い」の変化別)



注1 学習時間(平均時間)は、「学校の宿題をする時間」「学校の宿題以外の勉強をする時間」「学習塾の時間」の平均時間を算出し、合計したもの。

注2 成績(自己評価)が上がった子どもとは、2015年は「成績中位」だった子どもが2016年は「成績上位」になった場合と、2015年は「成績下位」だった子どもが2016年は「成績上位」または「成績中位」になった場合とを合計したもの。

注3 2016年の学年。

I 課題提起(p.6~9)のまとめ

学校段階が上がるほど、学習時間は長くなるが、中高生では中3・高3生以外はあまり伸びていない。他方、勉強が「好き」な子どもの比率は徐々に減少し、中学生になると「嫌い」な子どもの方が多くなる。パネルデータの分析からは、勉強が「嫌いから好き」になる子どもが、どの学校段階でも1割前後いることがわかった。そのような子どもは、学習時間が増え成績が伸びている。以降では、勉強が「嫌いから好き」になった子どもには、どんな特徴があるのかについて、多面的に分析し考察していく。